

【科目情報】

授業コード	1FCB606010	科目ナンバリング	FCALAW84006-J1
授業科目名	民事執行・保全法		
担当教員氏名	仲田 哲		
開講年度・学期	2022年度前期	曜日・時限	金曜2限
授業形態	講義		
単位数	2単位		

【シラバス情報】

授業概要	民事執行法および民事保全法に定める民事執行・民事保全の各手続を、民事訴訟手続（判決手続）との関連に留意しつつ、実務的観点を踏まえて解説するもので、これら民事上の権利を実現する手続としての意義と重要性について理解を深めることができる。
到達目標	民事上の権利実現手続としての民事執行・民事保全の各手続について理解し、法曹実務家になったときすぐに必要なこれらの手続についての基礎的知識を備えることができる。

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第1回	民事執行・保全の種類・役割等 民事執行・民事保全の種類とその果たす役割について概観する。	毎回あらかじめ配布する「レジュメ」を基に授業（講義）を行なうので、予習を行い、授業を経た後、それを踏まえて復習をする。
第2回	強制執行開始の要件、債務名義、執行文等 強制執行開始の要件、債務名義の果たす役割とその種類、執行文の意義・機能とその付与手続等について概観する。	同上
第3回	執行関係訴訟等①② 執行分付与に関する救済手続、および請求意義・第三者意義等のいわゆる執行関係訴訟について解説する。	同上
第4回	同上	同上
第5回	不動産に対する強制執行①② 金銭執行のうち不動産に対する強制執行（不動産執行）手続について概観する。	同上
第6回	同上	同上
第7回	不動産を目的とする担保権の実行（不動産競売） 不動産を目的とする担保権の実行手続のうちの不動産競売に手続について、強制執行手続と比較しつつ、概観する。	同上

第8回	不動産収益執行および動産執行・担保権実行 不動産を目的とする担保権の実行手続のうち の不動産収益執行手続、および動産に対する 強制執行・これを目的とする担保権の実行手 続について概観する。	同上
第9回	債権等に対する強制執行および担保権実行① ② 金銭執行のうち債権、その他の財産権に対す る強制執行手続およびこれを目的とする担保 権の実行手続について概観する。	同上
第10回	同上	同上
第11回	非金銭執行等 物の引渡し等の強制執行、代替執行、間接強 制、意思表示の擬制、および財産開示手続等 について概観する。	同上
第12回	民事保全手続（一般） 民事保全の特徴とその果たす役割、その発 令・執行・不服申立て（救済）の各手続一般 について概観する。	同上
第13回	民事保全手続（仮差押え） 仮差押えの存在意義・効力・執行について概 観する。	同上
第14回	民事保全手続（仮処分(1)(2)） 係争物に関する仮処分（処分禁止仮処分・占 有移転禁止仮処分）および仮の地位仮処分の 存在意義・効力・執行について概観する。	同上
第15回	同上	同上
第16回	期末試験	

<b>事前・事後学習の内容</b>	毎回、あらかじめ配布する「レジュメ」を基に授業（講義）を行なうので、予習を行ない、授業を経た後、それを踏まえて復習をする。 予習→授業→復習をすべて行なって初めて授業（講義）の成果が挙がるのである。
-------------------	--

<b>成績評価方法</b>	絶対評価 (1) 到達目標の達成度について評価を行なう。 (2) 評価方法 学期末試験：90% 授業における議論への参加状況および学習への積極性の評価：10% (3) 単位修得のための最低基準 民事執行・民事保全の各手続についての実務家として必要な基礎的知識を備えること。
<b>履修上の注意</b>	毎回配布する「レジュメ」を踏まえての予習⇒授業⇒復習を必ず行なうこと。
<b>教科書</b>	特に指定せず、毎回、「レジュメ」を配布する。
<b>参考文献</b>	中野貞一郎＝下村正明著「民事執行法」（2016年、青林書院）、原井龍一郎＝河合伸一編著「実務民事保全法〔三訂版〕」（2011年、商事法務）、上原敏夫＝長谷部由起子＝山本和彦編「民事執行・保全判例百選〔第3版〕」（別冊ジュリスト247号、2020年）ほか
<b>その他</b>	